

# 神大に膜工学研究棟完成

神戸大学(神戸市灘区)の六甲台第2キャンパスに、海水の淡水化などに使う膜工学を研究する国内最大規模の「先端膜工学研究拠点」が完成した。今後、世界で水不足が見込まれることから、膜工学の水処理分野は100兆円規模のビジネスになると予測される。同大は「産学官連携を強め、世界に研究を発信できる一大拠点にしたい」とする。(上田勇紀)

## 国内最大規模 海水の淡水化 加速

同大は2007年、本格的な膜工学の教育・研究拠点として国内初の「先端膜工学センター」を開設。「水処理グループ」など5グループに分かれて研究してきたが、まとまった研究棟がなく、学内に分散していた。

今年4月、6階建ての研究棟が完成。実験

## 海外機関とも連携

室や分析室などを備えており、研究拠点としての設備が整った。今後は拠点に関わる教員を建築学など5学系からも集め、現在23人の人員を強化。工学研究科の松山秀人教授を中心に研究を加速させる。

松山教授によると、人口増などにより、将来的には世界の人口の

から2〜3倍に広がる水市場に向け、研究に取り組みたい」と力を込めた。

27日、関係者を集め、同大百年記念館六甲ホールで竣工式典を行う。

完成した先端膜工学研究拠点(神戸市灘区六甲台町1)

(神戸大学提供)

